

## インタビュー映像から読み解く歴史と現在

## Key words

日系人の強制収容、442連隊、戦争/人権、多文化共生

## 1 活用する主な展示および資料

- DVD 「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」
- 展示 「経験を語り継ぐ」 インタビュー映像
- 海外移住資料館 「パスポート」

## 2 教科・領域との関連性および総時間数

- 高等学校国語科（現代の国語、国語表現）
- 総合的な探究の時間
- 全3時間

## 3 目標

- 第二次世界大戦中にアメリカ合衆国で暮らしていた日本人移民・日系人が置かれていた状況などを通して、世代や立場、文化的背景などを異にする多様な相手が実社会にいることを理解することができる。【知識・技能】
- 当事者のインタビューなどについて、自分の考えや感じたことを言葉にし、互いの意見を伝え合おうとしている。  
【思考・判断・表現】
- 当事者の表情や言葉を通して、彼らに深く共感したり彼らの当時の状況を豊かに想像したりしている。【主体的に学習に取り組む態度】

## 4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

本教材は、第二次世界大戦下のアメリカ合衆国における、強制収容された日本人移民や日系人、日系アメリカ人部隊（442連隊）と現在の日系アメリカ人の様子についてまとめた映像である。映像内では当事者が直接インタビューに答えており、文字では読み取ることが難しい表情や言葉の抑揚を感じることができる。生徒たちは、普段の生活では触れ合う機会の少ない人々のインタビュー映像を通し、世代や立場、文化的背景などを異にする多様な相手が実社会にいることを理解することができる。また、当事者の言葉への考えを深める活動を通して、人々に深く共感したり豊かに想像したりする力を養うことができる。これは、国語科の目標である「言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成」につながる。そして、学習のまとめとして、自分とは異なる立場・文化的背景を持つ人物の発言について考え、互いの意見を伝え合うことで、生徒が自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。自分とは異なる立場・文化的背景を持つ人物の存在や言葉に触れ自身の想いや考えを広げることは、「生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす」活動にもつながるため、本教材は国語科の学習教材として適したものだといえる。



## 5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海外移住資料館「パスポート」P.2を使って、海外移住や日系人について理解する。</li> <li>2. 「第二次世界大戦」をテーマに、ウェビングマップを作る。</li> <li>3. DVD「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」の「第一章 強制収容所」(約12分)を視聴する。</li> <li>4. 映像の中の言葉や表情から読み取った当時の状況や人々の思いをワークシート1に書いていく。(グループ学習でも可) <ul style="list-style-type: none"> <li>● (②) 話さなかったのではなく、あまりにも辛い経験すぎて話せなかったのだと思う。</li> </ul> </li> <li>5. ワークシート1に書いた意見を発表し、意見交換する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● DVD視聴前に、①DVDの簡単な説明をし、②ワークシートの言葉について考えることを伝える。</li> <li>● ウェビングマップ作りは、個人でもグループでも良い。</li> <li>● ①～⑤のどれを選んででも良い。グループ学習の場合は各自に割り当てても良いが、①～⑤ごとに各グループの担当者が発表する。</li> </ul>
2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. DVD「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」の「第二章 442連隊」(約12分)を視聴する。</li> <li>2. 映像の中の言葉や表情から読み取った、当時の状況や彼らを取り巻いていた環境、彼らの思いをワークシート2に書いていく。(グループ学習も可) <ul style="list-style-type: none"> <li>● (③) アメリカ人として出兵した元442連隊の人が「大和魂」という言葉を使っているところから、アイデンティティが揺らいでいたのではないかと思った。</li> </ul> </li> <li>3. ワークシート2に書いた意見を発表し、意見交換する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業開始時に前時のワークシートをもとに振り返りを行う。</li> <li>● 映像は第2章の12分20秒(ロバート・イチカワ氏インタビュー後)で止める(12分20秒以降は戦場の過酷な映像が流れる)。</li> <li>● ①～⑤のどれを選んででも良い。グループ学習の場合は各自に割り当てても良いが、①～⑤ごとに各グループの担当者が発表する。</li> </ul>
3	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. DVD「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」の「第四章 戦後の日系アメリカ人」(約5分)を視聴する。</li> <li>2. ワークシート3をもとに「9.11の時ブッシュ大統領は何と言ったか」(「経験を語り継ぐ」インタビュー映像より)について考える。(グループ学習も可) <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>ブッシュ大統領の言葉：「私たちもそのような偏見に懸念を抱いているし1942年にノーム（ミネタ）に起きたことが今起きないことを望んでいる。」</u> <u>We're equally concerned about all this rhetoric and we don't want to have happen today what happened to Norm in 1942.</u></li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業開始時に前時のワークシートをもとに振り返りを行う。</li> <li>● ノーマン・ミネタ氏がかつて強制収容されていたことをブッシュ大統領は知っていることを補足するなど、生徒の活動の支援をする。</li> <li>● 最後に参考図書を紹介し、読書の重要性を伝える。</li> </ul>

## 6 学習後の姿

学習活動を通し、生徒は自身の生活圏内にはいない人々の存在や知らない歴史について触れることで、書物や映像などからではないと学ぶことができないことが社会に多く存在することを理解する。授業の最後に参考文献を紹介し読書の重要性を伝えることで、読書に興味を持つ生徒が増えることを期待している。

## 7 授業づくりのための参考資料

- ジョージ・タケイ、ジャスティン・アイジンガー、スティーヴン・スコット共著、ハーモニー・ベッカー画、青柳伸子訳(2020)『<敵>と呼ばれても』作品社